

平成24年度 第1回CCC教育学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年6月18日（月） 15：00～17：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 参加者：三尾委員、竹熊委員、難波アドバイザー

（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 検討事項

1. 本日の記録担当選出

2. 学士力実現に求められる教育改善モデルの検討

事務局より今年度の検討課題とスケジュールについて以下のような説明があった。

今年度は、第1段階として各委員会がそれぞれの分野の教員に期待される共通の学識について検討し、次に学士力実現に求められる教育改善モデルを検討、最終的に11月に提言としてとりまとめていただきたい。

次に、本日の委員会資料に関して説明があり、これまでのCCCの協議全体の流を受けて、教育の問題について、一部の先生を除いて大学が国民に対して満足した教育がなされなかったという外からの評価に対してどのような授業改善をしようとしているのか、達成のための課題は何かといった点について議論していただきたいとの提案がなされ、「教育学教員に期待される学識」について検討された。

具体的に、「強い使命感と倫理観」「研究者としての統合能力」、「研究成果の分析や科学的に捉える技法、社会のイノベーションに繋げる力」「学生に学びの重要性を気づかせる力」「ICTとの関わり」などとポイントが確認され、文案をまとめた。

以下、議論の概要を示す。

- ・「人間の理解」、「人権尊重」、「社会正義」、「地球環境」、教育学士の到達目標である「学びの意義と教育の必要性」、「人との関わり」、「生活との関わり」、「学び続ける」という姿勢が大切である。
- ・維持発展を持続可能な社会ということを念頭に置き、「人類と地球社会の維持発展を支える」教育(学び)という表現ができる。
- ・「人材育成」も必要ではないか。「人材」を「人財」としてもよい。
- ・「地域社会」、「グローバリゼーション」、「より広い視野の必要性」、「探求していく姿勢」が必要である。
- ・「個人・社会と多面的に関わる」という表現はどうか。「統合力」という表現の方が幅広いのではないか。
- ・「総合的に捉え」という表現の中に「探求し続けること」も含まれる。
- ・「理論と現場の関連づけができること」「関連づけに取り組めること」はどうだろうか。

- ・「経験知、実践知の積み重ね」がある点を表現したい。
- ・教育で大切なのは「共に生きること」だと考える。
- ・学問の何を「気づかせる」か。「生涯続けて学び続ける」ということではないか。
- ・「ICTなどの教育技法を駆使して」という表現はどの分野も共通しているが、後半については、学問領域で様々である。教育学の技法として教室外の活動も必要だと訴えたい。例えば、「学内外のコミュニケーション重視型」、「持続可能な実践型」、「対話型」など。
- ・振り返りを気づかせるという点では「省察型」はどうか。省察の中には、体験やコミュニケーションも含まれている。予習や学んだことの社会的応用も含まれる。

以上の議論の結果、「教育学教員に期待される学識」として最終的に5項目にまとめられた。

3. 今後の検討スケジュールについて

次回は、7月30日月曜日の14時から「教育改善モデル実現に求められる教育力」に関して、どのような力が必要で、その力を発揮するためにはどうしたら良いか、ということに関して具体的に考えることとなった。

以上